

2023年 4月 24日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人

地域認知症サポートブリッジ

代表者・役職名 氏名 事務長 谷口真理子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ひなたカフェの設置運営と認知症の人による読み聞かせ活動&サンタさんからのプレゼント

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

私たちのNPOは、広く一般市民を対象として、主に地域ケア活動にかかわる人々に対して、認知症ケアに関連する研修、コンサルテーション、地域ネットワーク作りなどの活動を行うことにより、認知症の人が安心して生活できる地域社会の構築を目指し、それらを通じて、広く地域における認知症周辺問題の解決とQOLの向上に資することを目的として2006年6月に設立されました。会員数は10名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

認知症の人だけではなく、様々な障害がある人が、地域で交流できる場所、さらには、認知症の人が社会の中で役割を感じることができる場所が十分に存在しているとはいえないというのが本プロジェクトの背景にあり、その解決の一助となりたいというのが、本プロジェクトの目的です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

①認知症当事者による学童保育での読み聞かせ+クリスマス学童訪問
八王子市内の学童保育所(8ヶ所)の児童に対して認知症当事者が絵本の読み聞かせを行いました。
八王子市内の学童保育所(8ヶ所)の児童に対して認知症当事者が読み聞かせをし、うち3か所の学童保育所については、メリークリスマス学童訪問をし駄菓子をプレゼントしました。

② ひなたカフェ :地域の人が集い出合い、障害者家族、認知症の人の家族を交えた意見交換会・多職種連携なども実施する。当事者を含めた地域の人が気軽に集い、本当の自分をさらけ出し、本音で語り合える場の運営をしました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

◎ 認知症当事者による学童保育での読み聞かせ+クリスマス学童訪問
「結果」 コロナの感染が急拡大している中でのイベントであったが、八王子市社会福祉協議会、各学童保育所の理解のもと、八王子市内の8か所での学童保育所で交流をしました合計人数はのべ400名になります。
「成果」
児童たちが認知症の人と交流することにより、認知症の人が特別な人ではなく普通の人であることを児童及び関係者に実感してもらいました。
「社会的変化」
学童保育所の児童と認知症のある人たちが交流を図ることによって、お互いが顔見知りになり、お互いで見守り合い、誰もが安心して暮らせる町づくりの仕組みの土台作りになったと思います。

◎ひなたカフェ
「結果」今年度6回実施しました。

「成果」ステークホルダー(町の民生委員、地域包括支援センター)とともに、認知症の人が社会的役割が果たせる企画を主体的に考えていく場となりました。
「社会的変化」認知症の人、家族、障害者が、自宅に引きこもることなく住み慣れた街に出て、生きがいを持って暮らせる社会作りに資することができたと考えます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

助成金の支援なしで事業を継続するための方策の策定が必要である。
今後の展望としては、今回の協働事業からでた様々なアイデアを実際来实现していき、助成がなくとも活動が続いていけるようにNPOの認定化を進め、多くの方の善意(寄附金)を集積しやすい態勢作りを進める。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

2022 年度多摩地域市民活動公募助成

NPO 地域認知症サポートブリッジ

八王子市学童保育所 で 2022/12/24(土)に行われた、「メリークリスマス&ペットボトルキャップ工作学童訪問」イベントについて紹介する。

このイベントは、NPO 地域認知症サポートブリッジが主催し、DAYS BLG!はちおうじと協働して行われた。児童たちと認知症のある高齢者との交流によって、認知症のある人が特別な人ではなく、普通の人であることを知ること。また、互いが顔見知りになり、見守り合い、安心して暮らせる町づくりの土台とすることが狙いだ。



メンバーはサンタクロースやトナカイの衣装を着て、3 か所の学童保育所の児童に駄菓子をプレゼントして回った。また、児童と一緒にペットボトルキャップ工作も行った。



新型コロナウイルス感染症が流行している中での開催だったが、八王子市社会福祉協議会と各学童保育所の理解のもと、開催することができた。

このような活動を通して、誰もが必要とされる地域社会をつくり、インクルーシブ社会の実現につなげる。

NPO 地域認知症サポートブリッジ

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/013005752>